

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	遊離心膜脂肪織による気管支断端被覆 術後6か月における残存量の評 価
	研究目的	肺悪性腫瘍に対する手術の標準手術である肺葉切除術後に気管支断端ろ う(手術で閉鎖したはずの気管支に穴が空いてしまう)という致命的な合 併症が起こることがあります。その予防として遊離心膜周囲脂肪織による 被覆の有用性が報告されてきており、我々もこの方法を採用しているた め、その有用性を検討します。
	研究対象者	2015年4月から2018年12月に縦郭郭清を伴う肺葉切除を施行し、遊離 心膜脂肪による気管支断端被覆を施行した症例
	研究期間	西暦 2019年7月31日～西暦 2020年12月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を 利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	呼吸器外科 永島琢也
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診 療科/部局等	呼吸器外科
	共同研究の場合、共同 研究機関および各施設 での研究責任者	神奈川県立がんセンター：永島琢也 横浜市立大学附属市民総合医療センター：乾健二